



ABC

Asahi Broadcasting Corporation

第81期 事業のご報告 平成19年4月1日～平成20年3月31日

朝日放送株式会社
証券コード:9405

INDEX

◆ごあいさつ	1	◆トピックス	8
◆テレビ	3	◆連結財務諸表	11
◆ラジオ	5	◆個別財務諸表	13
◆その他事業	6	◆会社データ	14



●ごあいさつ Message from the President



取締役相談役
西村 嘉郎



代表取締役社長
渡辺 克信

株主の皆様方には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、第81期(平成19年4月1日から平成20年3月31日)の事業のご報告がまとまりましたので、お届けいたします。

当連結会計年度のわが国経済は、サブプライム住宅ローン問題を背景とした金融資本市場の不安定化や、原油価格の高騰による素材価格の上昇などの影響により、企業部門を主体とした景気回復が足踏み状態となりました。さらに個人消費も停滞するなど、今後の景気の見通しは、より一層不透明なものとなりました。

このような経済環境は放送業界にも影響を与え、当社グループにとっては厳しい状況が続きました。放送広告収入の縮小が懸念されるなか、当社は当年度からイー・ビー・シー開発株式会社を連結子会社といたしました。イー・ビー・シー開発株式会社は住宅展示場業界の先駆者として、関西及び首都圏の合わせて23会場でハウジング事業を展開しております。このたびの連結子会社の増加に伴い、当社グループの事業は放送事業、ハウジング事業、ゴルフ事業の3つのセグメントに区分することといたしました。

当年度におきましては、放送事業においてテレビ視聴率は、全日帯・プライム帯・プライム2帯において3冠を達成しました。ラジオ聴取率でも平成18年以來9回連続(平成20年4月調査を含む)の全局首位を達成することができました。テレビ・ラジオ以外の部門で注力しております著作権・通販収入などではさらなる売上増を図ることができました。ハウジング事業では新規の「ABCハウジング神戸駅前住宅公園」が満棟出展でスタートいたしました。ゴルフ事業は冬場の積雪によるクローズなどもありましたが、積極的な営業を展開し、来場者は前年を上回ることができました。

以上のような事業展開の結果、当グループ連結での営業収益はイー・ビー・シー開発株式会社の連結子会社化による増加があったため、テレビ放送事業での減収があ

朝日放送信条

- 一、平和と自由の精神を貫き、地域社会と文化の向上につくす。
- 一、進歩と寛容の理念により、品位と責任を重んじ、社会の信頼にこたえる。
- 一、報道と評論は常に中正な立場に立って、真実を正しく敏速に伝える。
- 一、番組は良識と知性を高めつつ、楽しさとやすらぎを与える。
- 一、広告は誇張を排し、清新な創意によって産業の発展を期する。

正しい報道 Accurate information

美しい表現 Beautiful expression

楽しい番組 Cheerful programs

ったものの、833億5千2百万円（前期比10.0%増）となりました。セグメント別では放送事業の売上高は734億7千1百万円（前期比1.8%減）、ハウジング事業は89億2千9百万円、ゴルフ事業は9億5千2百万円（前期比0.9%増）でした。営業費用は、当社発のテレビネット番組本数の増加や通販収入の増加に伴う費用増、また連結子会社の増加などもあり、801億2千5百万円（前期比11.3%増）となりました。その結果、当社グループ連結での営業利益は32億2千7百万円（前期比15.4%減）、経常利益は36億6千6百万円（前期比9.0%減）となり、前年度と比べそれぞれ減益となりました。

また特別利益として環境対策事業補助金などを計上した結果、当期純利益は15億7千4百万円（前期比31.4%減）となり、増収、減益となりました。

当社単独の業績としましては、売上高は730億3千2百万円（前期比1.6%減）となりました。テレビ放送事業収益は637億3千5百万円（前期比3.6%減）。主力であるスポット収入は、在阪4局におけるシェアを24年ぶりに1位としましたが、地区投下額が減少したため減収となりました。また、全国的にネットワークセールスが不振で、タイム収入も減収となりました。ラジオ放送事業収益は37億7千5百万円（前期比2.2%減）、また、テレビ・ラジオ以外の収入は55億2千万円（前期比30.5%増）となりました。テレビショッピング「評判! なかむら屋」による通販収入が前期比55.6%増と大幅に増えたほか、人気テレビ番組のDVDやアニメの商品化権など番組の二次利用ビジネスも好調でした。

以上の結果、当社単独の営業利益は18億5千2百万円

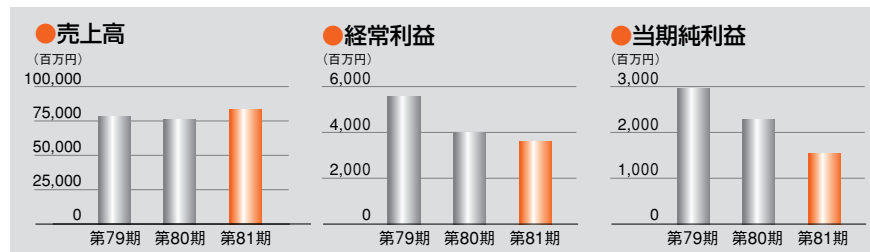
（前期比49.9%減）、経常利益は21億6百万円（前期比44.6%減）となり、さらに特別損益を加減した当期純利益は8億9千8百万円（前期比58.8%減）でした。

当社は本年5月に「デジタル時代の創造工場」と位置づけている新社屋に移転をいたしました。最新の設備を備えた“工場”を活用してより強力なコンテンツ制作に注力してまいります。また、当社の新社屋を含む堂島川沿い一帯は「ほたるまち」と名づけられ、超高層マンションや多目的ホール、商業施設などが立ち並び新しい街となりました。これから共に地域の発展を目指してまいります。さらに当社のグループ会社が入居する「ABCアネックス」も新社屋近くに完成いたしました。今後、新社屋と「ABCアネックス」により当社グループの結束力をさらに強化し、グループの収益性を向上させていきたいと考えています。また、本年4月にはCS放送会社、株式会社スカイ・エーを連結子会社化いたしました。

新社屋建設と同時に進めてまいりました組織・制度・意識など諸々の改革は、新社屋移転後は「リボン&チャレンジ運動」とし第2期の全社改革運動として進めてまいります。

さて、第81回定時株主総会終了後に開催されました取締役会におきまして、代表取締役社長の西村嘉郎が取締役相談役に、代表取締役副社長の渡辺克信が代表取締役社長にそれぞれ就任いたしました。

当社グループはグループの総合力を高め、株主価値向上にむけ、引き続き事業の再構築を果敢に進めてまいります。株主の皆様方には、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



(連結ベース)

平成20年6月

取締役相談役

西村嘉郎

代表取締役社長

渡辺克信



金曜21時ドラマ
「パズル」



「M-1 グランプリ 2007」
史上初！敗者復活戦から
の王者となったのは
「サンドウィッチマン」



毎週月～金曜 あさ6時45分



毎週月～金曜 午後3時49分

●全日、プライム、プライム2帯で三冠達成

当期の視聴率は、全日9.0%で3年連続の首位。プライム帯も14.5%で2年ぶりの首位を獲得しました。また、プライム2帯も6年連続首位を堅持した結果、当期は全日、プライム、プライム2帯における三冠を達成しました。このほか、ゴールデン帯も13.4%で2位を確保し、各時間帯とも視聴者の皆様から安定した支持をいただきました。

プライム帯では、テレビ朝日と共同制作の金曜21時ドラマ枠が、今年4月に3年目を迎えました。より安定した視聴率を目指し、引き続き強化を続けています。平日夜のベルト番組「報道ステーション」は当期も好調で、平均して17.1%と高い視聴率を獲得しています。このほか単発番組では、年末の恒例番組となった漫才日本一を決める「M-1グランプリ」が、平成13年の放送以来、歴代2位となる30.4%の高視聴率を記録し、大きな話題となりました。

ローカル番組では、好調の朝・夕方・深夜帯の3ベルト番組など、自社制作番組の強化を継続したことにより、視聴者の皆様から非常に安定した支持を得ました。3ベルト番組の当期の平均視聴率は、朝帯の「おはよう朝日です」が11.4%、夕方の「ムーブ！」が7.2%、深夜帯の「ナイトinナイト」(月一木)が12.1%、そして金曜深夜の「探偵!ナイトスクープ」は20.4%と好調で、3年連続の全日での視聴率首位獲得に大きく貢献しています。

スポーツ番組では、視聴率33.3%をマークし、当期の関西地区視聴率ベスト4にランクインした「北京五輪野球アジア地区最終予選 日本×台湾」をはじめ、安藤美姫、浅田真央などの人気選手が活躍した「フィギュアスケート グランプリシリーズ」が平均視聴率14.7%をマークするなど、大型スポーツ番組が好調に推移しました。また、毎年中継している夏の高校野球では、佐賀北高校が劇的な逆転勝利で初優勝を飾った決勝戦の視聴率が8.5%と、競合するNHKの視聴率を上回りました。また、高い人気を堅持している阪神タイガースのナイター中継は14試合放送し、平均視聴率は12.8%と高い水準で推移しました。

このほか、全社を挙げて積極的に取り組んでいる地球環境問題をテーマにした年1回の特別番組「ガラスの地球を救え スペシャル」が当期で5年目となり、高い評価を得ています。また、いじめ、虐待など、こどもをめぐる問題に正面から向き合い、こどもの未来について考えるキャンペーン「ABCこども未来プロジェクト」は2年目に入り、7月に2つの特別番組を放送、3月には第4弾となる「いのちと向きあう春」を放送しました。

またコンクール関連では、2007年の民間放送連盟賞において、テレビ教養番組部門で「人間の筏 ～広島・長崎、二重被爆者 90歳の旅立ち～」が優秀賞を獲得しました。

※視聴率は関西地区、ビデオリサーチ調べ

探偵!ナイトスクープ
light soccer



毎週金曜 午後11時17分



高校野球を盛り上げた
「チームねったま」



ガラスの地球を救え スペシャル
環境特番「とどけ生きものたちの声」



「ABC こども未来プロジェクト」
番組第4弾「いのちと向きあう春」
のスタジオ討論

おはよう
パーソナリティ
道上洋三です



毎週月～金曜 あさ6時30分



毎週月～金曜 午前9時



元気
イチバン!
芦沢誠です



毎週月～金曜 午後3時30分



おはようパーソナリティ
道上洋三です
31周年記念イベント
「夢野球」

ABC radio

1008 kHz

●ラジオ番組聴取率ランキングで上位を独占

当期の聴取率は年間4回すべての調査で、FMも含めた関西12社のなかで首位となり、前期から2年連続で年間首位を堅持しています。

直近の昨年12月の調査においては全放送時間帯の週平均シェアが23.9%と2位以下を大きく引き離しており、特にラジオのゴールデンタイムである平日6時から18時の平均シェアは27.2%と圧倒的な強さを見せています。また同調査では関西圏のラジオ局が放送している番組の聴取率上位10位までに当社の8番組が入っており、前期に続き、全番組中聴取率1位となった「おはようパーソナリティ道上洋三です」をはじめ、平日 daytime のベルト番組「全力投球!! 妹尾和夫です」「元気イチバン! 芦沢誠です」が引き続き好調です。このほか、阪神タイガースの試合の聴取率が競合する他局を常に上回っているほか、ラジオドラマの制作や信頼度の高いニュース報道など総合編成を行うラジオ局としての充実度は他局を圧倒しています。

また放送に関連したイベントにも積極的に取り組んでいます。今年3月には道上洋三パーソナリティが監督を務め、阪神タイガースOBを中心メンバーとした「ドジョーズ」が、タレントの萩本欽一さん率いる社会人野球チーム「茨城ゴールデンゴールズ」と対戦する試合を企画、開催しました。江夏・田淵の黄金のバッテリーも復活、京セラドーム大阪に詰め掛けた2万1千人の観客がゲームを楽しみました。

こうした活気あるソフトの状況と営業活動における様々な努力の結果、スポット広告セールスについてはラジオ各局が苦戦している中、当社においては通期で前年比100%の売上げをクリアすることができました。

このほかコンクール関連では2007年度の民間放送連盟賞において、ラジオエンターテインメント番組部門で「笑福亭銀瓶 ドリーム・オブ・マイライフ」が優秀賞を受けました。

●イベント事業

事業イベントでは、8月にロックフェスティバル「SUMMER SONIC 07」を開催しました。会場を大阪南港から舞洲に移した今回は2日間のイベント期間中に過去最高の8万人のファンを集めました。演劇では、シェイクスピア作・蜷川幸雄演出による「恋の骨折り損」(4月)や「オセロー」(11月)を上演しました。また9月には藤沢周平原作の「蝉しぐれ」を初の完全舞台化、上方歌舞伎のホープ、片岡愛之助の熱演が大きな感動を呼びました。

ミュージカルでは、8月にブロードウェイミュージカル「ヘアスプレー」を、1月には大阪発のミュージカル「ファントム」を上演。いずれも大好評を博しました。スポーツイベントでは、男子ゴルフトーナメント「ABCチャンピオンシップ」をABCゴルフ倶楽部で10月に開催しました。フィリピンのフランキー・ミノザが片山晋呉の3連覇を阻んだ大会には4日間で1万人を超えるギャラリーが観戦に訪れました。

●情報通販事業

2006年4月に放送を始めたショッピング番組「評判! なかむら屋」は、2年目も順調に推移しました。引き続き、情報番組として楽しめるうえ、日々の生活を豊かにする職人のこだわりの一品などを中心に「ちょっといいもの」を幅広く紹介しています。8月にはEコマースを開始、番組も視聴者に広く浸透し、通販による売上げおよび利益を大きく伸ばすことができました。

●ライツ事業

番組の二次利用では、「必殺」シリーズのパチンコ第3弾「必殺仕事人Ⅲ」が大ヒットし、収益に大きく貢献しました。アニメ「プリキュア」シリーズの商品化も好調を維持しています。金曜21時のドラマのDVD化や海外番販「探偵! ナイトスコープ」、「熱闘甲子園」、



ロックフェスティバル「SUMMER SONIC 07」

蜷川幸雄演出
「オセロー」



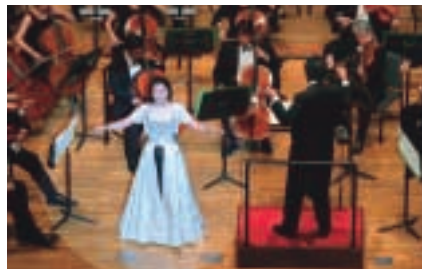
ミュージカル
「ファントム」



毎週月～水曜 午前10時53分
「評判! なかむら屋」



「探偵! ナイトスクープ」のDVD



鮫島有美子



指揮者 金聖響

「M-1グランプリ」などのDVD化をはじめ番組の二次利用ビジネスを積極的に展開しています。

● デジタル事業

携帯サイトでは、ドラマ・アニメ・高校野球・阪神タイガースなどの人気コンテンツを一層拡充し、テレビ・ラジオの各番組との連携を強化することにより、有料会員数前期比15%増を達成しました。秋からは、着うたサービスや人気アニメ「プリキュア」シリーズの有料動画配信を開始、放送コンテンツの二次利用サービスを広げています。また、ホームページで10年の実績を有する、夏の高校野球ライブ中継では、総視聴数420万件、ライブ中継同時視聴数4万件超を実現、利用者からの高い評価を得ています。

● ザ・シンフォニーホール

1982年に開館したザ・シンフォニーホールは当期で25周年を迎え、10月には記念コンサートとして2日間にわたり、スタニスラフ・ブーニン、鮫島有美子、千住真理子、井上道義指揮大阪フィルハーモニー交響楽団などホールに縁の深い出演者を迎え「ガラ・コンサート」を開催しました。また4月の「エディタ・グルベローヴァ ソプラノ・リサイタル」や金聖響指揮オーケストラ・アンサンブル金沢による「ブラームス・チクルス」4回公演から、3月のライブツィヒ聖トーマス教会合唱団&ゲヴァントハウス管弦楽団による「マタイ受難曲」まで17回の記念コンサートを主催し、お客様から大好評を得ました。

また他ホール公演として、6月にはイタリアから初来日の名門歌劇場「パレルモ・マッシモ劇場」日本公演をびわ湖ホールで開催し、2月にはフェスティバルホールで草刈民代が最後のオデット／オディールを披露したレニングラード国立バレエの「白鳥の湖」などを主催し、満員のお客様を魅了しました。

●トピックス Topics

「創造工場」

新社屋の基本コンセプトはシンプルで力強い、この四文字です。

放送局の使命は視聴者の心に届く、魅力的なコンテンツを
絶え間なく生みだしてゆくこと。

そのための最強の支援ツールとして社屋はあるべきだ、と考えました。

アイデアを縛ることなく具現化する。

スピーディに情報を集め的確に加工する。

どんな状況下にあっても確実に放送を続ける。

働く人のコミュニケーションと感性を刺激する。

そんな仕掛けに満ちた

創り／造り／^{たく}工む^{フィールド}、場です。



朝日放送新社屋

テレビスタジオ

制作・スポーツ番組のA・Bスタジオ、情報番組のCスタジオ、報道番組のNスタジオの4つがあり、全てHD(ハイビジョン)対応。実写とCGを合成するバーチャルリアリティにも対応しています。

またA・Bスタジオは、クリアな音声収録のために傾斜 Horizont を採用しています。

近年、報道部門とスタジオの隣接は一般的ですが、新社屋ではNスタジオだけでなく、情報番組のCスタジオもオフィスと一体の設計とし、生番組すべての速報性を高めています。



Aスタジオ

ABCホール

ABCホールは「新婚さんいらっしゃい!」など番組の公開収録をはじめ、音楽・演芸・演劇・映画・講演など多様な目的に対応する客席数258のホールです。

客席は可動式で、下段部分を壁面に収納すると、スタジオとして使用できる空間が生まれます。



ABCホール

ラジオスタジオ

ラジオはCM用のスタジオを増強し、あわせて5つのスタジオを持ちます。

生放送対応の第2・第3・第4スタジオの操作性は同一で、急なトラブルにもすぐ隣のスタジオでの放送が可能です。窓があり、パーソナリティが季節や天候などを感じながら話せるスタジオです。



ラジオ第2スタジオ

マスターコントロールルーム

電波を送り出す放送局の心臓部。テレビ（デジタル・アナログ統合型）とラジオのマスターを同一空間に配置。デジタルテレビの新サービスの可能性を広げ、デジタルラジオの本格サービスも視野に入れています。



マスターコントロールルーム

● 連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期 平成20年3月31日現在	前 期 平成19年3月31日現在	科目	当 期 平成20年3月31日現在	前 期 平成19年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	33,939	36,224	流動負債	16,098	9,875
現金及び預金	7,064	8,714	買掛金及び未払金	9,036	6,179
受取手形及び売掛金	13,398	13,665	短期借入金	700	700
有価証券	10,098	10,330	1年内返済長期借入金	320	—
たな卸資産	915	1,357	未払費用	1,613	1,526
短期貸付金	20	9	未払法人税等	989	42
繰延税金資産	745	618	役員賞与引当金	46	37
その他	1,702	1,552	本社移転損失引当金	722	—
貸倒引当金	△ 6	△ 23	廃棄物処理損失引当金	12	62
固定資産	64,377	53,408	設備等支払手形	1,506	656
有形固定資産	45,089	33,078	その他	1,150	670
建物及び構築物	8,172	7,133	固定負債	26,363	24,769
機械装置及び運搬具	4,046	4,812	長期借入金	5,250	5,000
工具器具及び備品	279	288	退職給付引当金	10,818	10,829
土地	10,527	9,950	本社移転損失引当金	—	779
建設仮勘定	22,063	10,893	廃棄物処理損失引当金	45	45
無形固定資産	1,004	1,167	負ののれん	675	—
ソフトウェア	946	1,101	預り保証金	8,945	7,912
その他	58	65	その他	628	202
投資その他の資産	18,283	19,162	負債合計	42,462	34,644
投資有価証券	8,975	12,508	(純資産の部)		
長期貸付金	759	1,510	株主資本	52,784	51,336
長期前払費用	1,585	9	資本金	5,299	5,299
繰延税金資産	5,244	4,323	資本剰余金	3,610	3,610
その他の投資	1,762	857	利益剰余金	43,875	42,427
貸倒引当金	△ 43	△ 46	自己株式	△ 0	△ 0
資産合計	98,316	89,633	評価・換算差額等	607	2,382
			その他有価証券評価差額金	607	2,382
			少数株主持分	2,462	1,268
			純資産合計	55,854	54,988
			負債及び純資産合計	98,316	89,633

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	83,352	75,787
売上原価	54,244	46,634
売上総利益	29,107	29,153
販売費及び一般管理費	25,880	25,340
営業利益	3,227	3,812
営業外収益	602	312
営業外費用	162	95
経常利益	3,666	4,029
特別利益	78	400
特別損失	413	407
税金等調整前当期純利益	3,332	4,022
法人税、住民税及び事業税	1,333	743
法人税等調整額	222	980
少数株主利益	200	4
当期純利益	1,574	2,295

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,453	3,832
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,062	△ 1,787
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 758	△ 232
現金及び現金同等物の増減額	3,631	1,812
現金及び現金同等物の期首残高	11,922	10,109
現金及び現金同等物の期末残高	15,554	11,922

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

連結株主資本等変動計算書

当 期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	5,299	3,610	42,427	△0	51,336	2,382	2,382	1,268	54,988
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△376		△376				△376
新規連結に伴う増加			249		249				249
当期純利益			1,574		1,574				1,574
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△1,775	△1,775	1,193	△582
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,448	△0	1,448	△1,775	△1,775	1,193	866
平成20年3月31日残高	5,299	3,610	43,875	△0	52,784	607	607	2,462	55,854

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

● 個別財務諸表 Non-Consolidated Financial Statements

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	29,963	34,961
固定資産	52,229	44,962
有形固定資産	34,119	23,802
無形固定資産	973	1,147
投資その他の資産	17,136	20,011
資産合計	82,192	79,923
(負債の部)		
流動負債	14,164	9,684
固定負債	15,984	16,949
負債合計	30,148	26,633
(純資産の部)		
株主資本	51,428	50,906
資本金	5,299	5,299
資本剰余金	3,610	3,610
利益剰余金	42,519	41,996
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	615	2,383
その他有価証券評価差額金	615	2,383
純資産合計	52,044	53,289
負債及び純資産合計	82,192	79,923

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	73,032	74,192
売上原価	46,314	45,362
売上総利益	26,717	28,829
販売費及び一般管理費	24,865	25,129
営業利益	1,852	3,700
営業外収益	362	273
営業外費用	108	171
経常利益	2,106	3,803
特別利益	128	436
特別損失	269	403
税引前当期純利益	1,965	3,835
法人税、住民税及び事業税	831	671
法人税等調整額	235	985
当期純利益	898	2,179

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

株主資本等変動計算書

当 期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計		
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	利益剰余金			自 己 株 資 本 合 計	株 資 本 合 計	その他有価証券評価差額金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		固定資産圧縮積立金	その他利益剰余金	繰越利益剰余金					利益剰余金合計	
平成19年3月31日残高	5,299	3,515	95	3,610	450	105	38,400	3,041	41,996	△0	50,906	2,383	2,383	53,289
事業年度中の変動額														
別途積立金の積立							1,000	△1,000	—					
剰余金の配当								△376	△376		△376			△376
当期純利益								898	898		898			898
自己株式の取得										△0	△0			△0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)												△1,767	△1,767	△1,767
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	1,000	△477	522	△0	522	△1,767	△1,767	△1,245
平成20年3月31日残高	5,299	3,515	95	3,610	450	105	39,400	2,564	42,519	△0	51,428	615	615	52,044

(注)金額は、百万円未満を切捨表示しております。

● 会社データ Corporate Data

会社の概況 (平成20年6月26日現在)

会社名	朝日放送株式会社 Asahi Broadcasting Corporation
創立	昭和26年3月15日
資本金	52億9,980万円
従業員数	665名
事業内容	放送法および有線放送法による 一般放送事業 他
本社	〒553-8503 大阪市福島区福島一丁目1番30号 Tel.(06)6458-5321(代表)

役員 (平成20年6月26日現在)

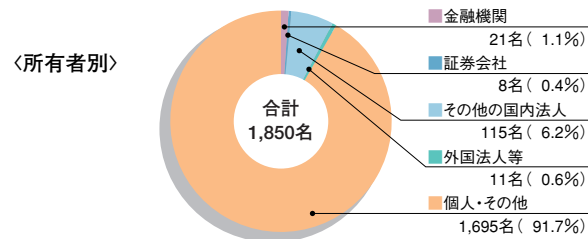
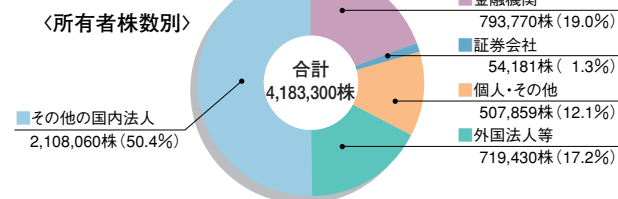
代表取締役社長	渡辺 克信	取締役	坂井 信也
代表取締役専務取締役	北畠 宏泰	取締役	冲永 荘一
常務取締役	和田 省一	取締役	松尾 好章
常務取締役	木下 栄一	取締役	水野 文英
常務取締役	脇阪 聡史	取締役	古川 賢三
取締役相談役	西村 嘉郎	取締役	福田 正史
取締役	領木 新一郎	取締役	田仲 拓二
取締役	脇 英太郎	常勤監査役	村井 守
取締役	池内 文雄	監査役	白賀 洋平
取締役	君和田 正夫	監査役	黒石 輯
取締役	山口 昌紀	監査役	橋本 宗利

株式の概況 (平成20年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 14,400,000株
- 発行済株式総数 4,183,300株
- 株主数 1,850名
- 大株主

株主名	所有株式数	議決権比率
株式会社朝日新聞社	622,490 株	14.9%
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	567,390	13.6
株式会社テレビ朝日	387,760	9.3
学校法人 帝京大学	155,400	3.7
朝日新聞信用組合	150,000	3.6
村山 美知子	145,500	3.5
日本生命保険相互会社	125,650	3.0
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	101,560	2.4
大阪瓦斯株式会社	85,500	2.0
近鉄バス株式会社	80,000	1.9

● 株式分布状況



Asahi Broadcasting Corporation



当社のホームページもご覧ください。
<http://asahi.co.jp>



◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 の 方 法	当社のホームページに掲載する。 < http://asahi.co.jp >

朝日放送株式会社

〒553-8503 大阪市福島区福島一丁目1番30号
TEL 06-6458-5321 (代表)



この事業のご報告は、環境に配慮し、大豆インキを使用しております。